

「子どもの眼は大人に比べて光に弱い！」  
ディスプレイの光を見つめるデジタル・キッズのマストアイテム

## JINS PC for kids

日本初 小学校における製品導入、(社)日本PTA 全国協議会推薦商品

2012年5月28日(月)より全国のJINS店舗で発売開始(全4色 3,990円)

株式会社ジェアイエヌ(東京本社:東京都渋谷区 代表取締役社長:田中 仁)は、パソコン・テレビ・携帯ゲーム機などデジタル機器のモニター・ディスプレイが発するブルーライトから眼を保護する、度なしの機能性アイウェア「JINS PC®(ジンズ ピーシー)」(2011年9月発売)を新たに子ども向けに開発した、「JINS PC for kids(ジンズ ピーシー フォー キッズ)」を2012年5月28日(月)より1型全4色3,990円にて全国のアイウェアショップJINS(ジンズ)店舗およびJINSオンラインショップにて発売を開始いたします。



(社)日本PTA全国協議会

ブルーライトとは波長が380~495nmの青色光で、眼に見える光(可視光線)の中で最もエネルギーが強く、自然界にも存在しますが、特にパソコンやテレビ、ゲーム等のデジタルモニター・ディスプレイから多く発せられます。ブルーライトは眼の奥の網膜まで達して炎症反応を引き起こすなど、網膜への影響が懸念されています。さらに網膜の神経節細胞がブルーライトを感知して、概日リズム(サーカディアンリズム)をリセットすることで体内時計の働きが乱れ、不眠傾向を引き起こす可能性も指摘されています。特に、未発達な子どもの眼は、これらの影響を受けやすいと考えられます。また近年、子どもたちのゲームやパソコンなどの使用時間は増加傾向にあり※、ブルーライトの影響がさらに懸念されます。

そこでJINSは、子どもがパソコンやテレビ、携帯ゲーム機等を使用する際に装着する、子ども専用のブルーライトから眼を保護する度なしのメガネとして「JINS PC for kids」を開発いたしました。また“眼を守る”ために、子どもたちが日常の生活において習慣的に「JINS PC for kids」を装着していくことを推奨し、杉並区立和田小学校ではJINS PCの導入が予定されているほか、小学校等、全国の教育機関へ啓発活動も行っており、本製品はアイウェアでは日本で初めて(社)日本PTA全国協議会の推薦商品に認定された商品です。

※厚生労働省 平成21年度 全国家庭児童調査より

「JINS PC for kids」の商品概要は次ページをご参照ください。

■お問い合わせ先■

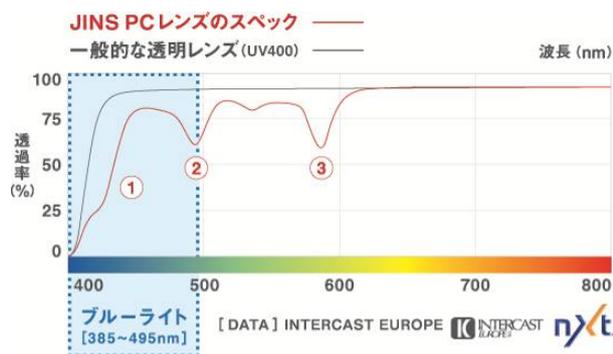
(株)ジェアイエヌ 広報担当 中島・北條 TEL:03-3479-4848 FAX:03-3479-4849

## 【商品の特徴】

### ◎ブルーライトを約 50%カットする NXT レンズ

イタリアの大手メーカー、インターキャスト社が共同開発した高性能レンズ「NXT」を採用し、ブルーライト領域(380～495nm)の光を約 50% (※英国基準 BS2724: 1987 に基づく測定値) カットします。

ただブルーライトを抑えるだけでは視界が暗くなり、色のバランスが崩れてしまうため、独自の光マネージメントシステムで光をコントロールし視認性を向上。色をゆがめることなく、自然な見え方を維持する性能を兼ね備えています。

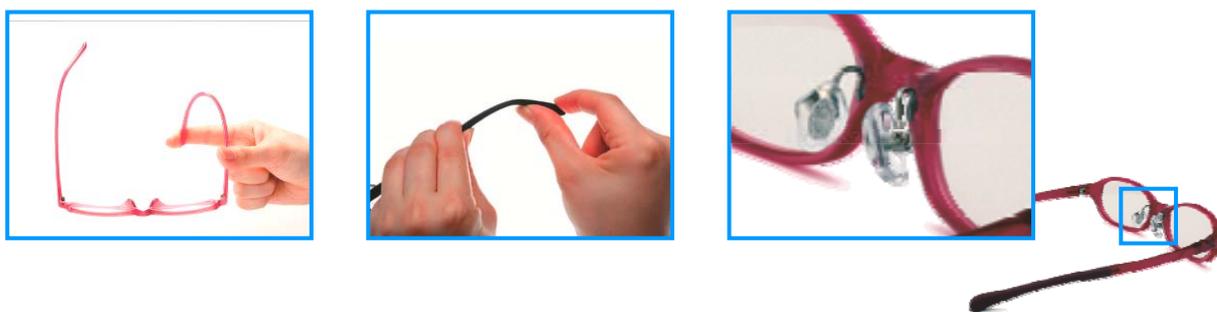


### ◎子どもが掛けてもストレスの少ない Air frame<sup>®</sup>を採用

スイスの素材メーカーEMS 社が開発した医療用カテーテルなどにも使用される、超軽量弾力素材「TR-90」を使用。軽量で弾力性・復元性に優れているため丈夫で、柔らかい素材はフィット感も高く、子どもが長時間掛けていてもストレスを感じにくい素材です。

また、耳の形や位置に合わせて自由に角度が調整できるメタル芯を内蔵したソフトラバー仕様のモダンや、お子様それぞれの顔の形に合わせて細かい調節が可能な S 字クリングス付きノーズパッドを採用しています。

店舗では、お子様の成長に合わせた微調整も承ります。



## 【商品概要】

商品名	JINS PC for Kids (ジズ ピーシー フォー キッズ)
価格	3,990 円(税込)
発売日	2012 年 5 月 28 日(月)
対象年齢	4 歳～10 歳
フレーム素材	Air frame <sup>®</sup> (素材:TR-90) ※モダン部分はソフトラバー
型・サイズ	1 型・ワンサイズ
カラー	4 色 (ブラウン、ブルー、グリーン、レッド)
レンズ	NXT ブルーライトカットレンズ (度数なしのみ)※レンズカラーは薄いブラウン
可視光透過率	80%
紫外線透過率	0.01% 以下(400nm)

## 【度付きのブルーライトカットレンズ交換サービスについて】



5月28日より全国のJINS店舗にて、子ども用のフレームに、+3,990円でブルーライトカット機能を備えた度付きブルーライトカットレンズに交換できる、レンズ交換サービス「JINS PC カスタム」を開始いたします。

JINS PC カスタム詳細ページ→[http://www.jins-jp.com/functional/pc\\_custom.html](http://www.jins-jp.com/functional/pc_custom.html)

※ パッケージ商品の「JINS PC for kids」は、度付レンズへのレンズ交換はできません。

※ JINS ONLINE SHOP では、子ども用視力矯正メガネは取り扱っておりません。(店頭のみでの取扱いとなります。)

価格	フレーム料金+3,990円(税込み)
ご注文からお渡しまで	ご注文いただいてから約2週間後のお渡しになります
発売日	2012年5月28日(月)
レンズの仕様詳細	<ul style="list-style-type: none"><li>・ブルーライトカット率約45%(英国基準 BS2724:1987に基づく)</li><li>・可視光透過率約87%</li><li>・国内大手レンズメーカー製</li><li>・レンズカラーは薄いブラウン</li><li>・薄型非球面レンズ(屈折率1.60, 1.67)</li></ul> ※上記ブルーライトカット率および可視光透過率は度数なし(S0.00)状態での数値となります。 度数により数値が異なる場合がございます。

## ■急速に高まる子どもたちのデジタルディスプレイへの接触頻度

【報道資料】

マーケティング・リサーチ会社のクロス・マーケティングが実施した調査によると、4歳～12歳(小学校6年生)の児童のパソコン利用率は約8割に達しており、小学校高学年では既に9割を超えていると言われていました。さらにパソコンの利用開始年齢の早熟化も進んでおり、同調査によると平均は6.7歳で、最も早い児童ではすでに1歳からの事例もあると伝えています。※1 また、家庭のみでなく、米国で進展しているタブレットPC等を用いた授業の電子化の流れも、今後国内の教育現場においても広がってくることが予測されます。このように、現代の子どもを取り巻くデジタル環境は急速に変化しており、ゲームやパソコンへのディスプレイへの接触機会はさらに拡大して行く事が予測されます。

※1 株式会社クロス・マーケティング社:「2012年4月 子供のパソコン利用に関する親の意識調査」

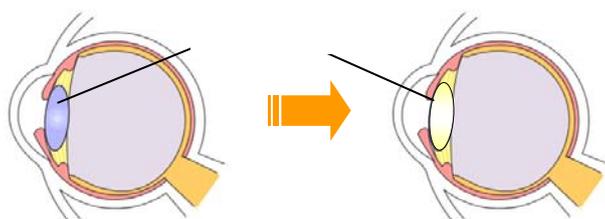


## ■大人に比べて強い光の影響を受けやすい子どもの“眼”

成長期の子どもの眼は非常に繊細でダメージを受けやすいと言われています。特に眼中でレンズの役割を果たす、「水晶体」は加齢と共に黄色く変化します。しかし、子どもの眼はこの「水晶体」が透明なままであり、大人の眼と比べ、紫外線やデジタルディスプレイなどから多く発せられるブルーライト(青色光)などの強い光の影響を受けやすい構造となっており、非常に無防備な状態にあります。



★加齢と共に水晶体は黄色化する



★黄色は青色と補色関係



色には補色関係が存在し、青色光は反対色である黄色の割合を高めると、目は青色に近い光を通しにくくなる。(=黄色の割合が少ないと青い光を通しやすい)

画像元: <http://www.civillink.net/fsozai/eye.html> ※図はイメージです

## 【日本初 小学校教育現場におけるパソコン用アイウェアの先行導入】

先進的なICT教育(ICT:Information and Communication Technology)との実績で名高い、杉並区立和田小学校にてJINS PCの商品特性と“眼を守る”というコンセプトに賛同頂き、5年生と6年生に「JINS PC」を先行導入する事が決定しました。今回の動きはディスプレイ接触機会が増える「子どもの眼の健康」に対する教育者や保護者の方々のニーズの高まりを反映したものであり、パソコン用アイウェアの教育現場への導入は国内では初となります。また、5月12日(土)にはJINS主催による「光」と生きものの関わりをテーマとした親子実験教室を実施。当社CSR活動の一環として児童と保護者にブルーライトから眼を保護する事の重要性について理解を深めていただく機会を提供する予定です。

## 【アイウェアでは日本初 (社)日本PTA全国協議会の推薦商品に認定】

「JINS PC for kids」は子どもの眼をブルーライトから保護するアイウェアとして、アイウェア分野では日本初めて(社)日本PTA全国協議会の推薦商品になりました。この度、(社)日本PTA全国協議会が定める推薦規程に則り慎重に審査された結果、現代の子どもを取り巻くデジタル環境の変化に伴いブルーライトの影響が懸念されることから、子どもの未発達な眼をブルーライトから守るアイウェアとして推薦商品に認定されました。



(社)日本PTA全国協議会は…小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、わが国における社会教育、学校教育の充実に努めるとともに、社会教育、家庭教育と学校教育との連携を深め、青少年の健全育成と福祉の増進をはかり、社会の発展に寄与することを目的とした社会教育団体です

## ■パソコンや携帯ゲーム機のディスプレイから発せられる“青い光”「ブルーライト」が眼に及ぼす影響とは？

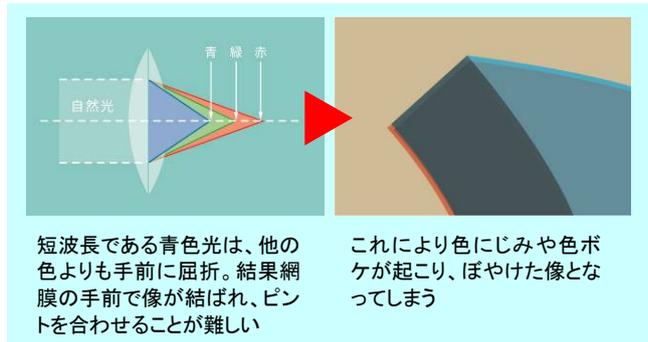
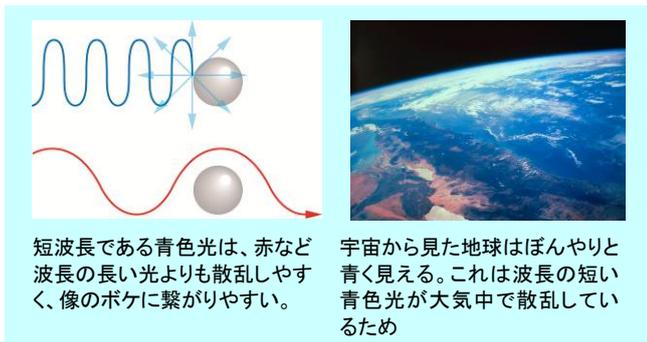
### ①網膜への悪影響

ブルーライトとは、眼に見える光(可視光線)の中で最もエネルギーが強く、眼の奥の網膜にまで届いてしまう青色光(380～495nm)のこと。日光など自然界にも存在しますが、特にパソコンやテレビ、ゲーム等のデジタルディスプレイから多く発せられます。このブルーライトは網膜に影響を与えるとされ、網膜の機能低下や黄斑変性症との関係が研究されています。



### ②疲れ眼の原因

ブルーライトは、赤色などの波長の長い光に比べて(1)光が錯乱しやすく、(2)像をぼやけさせやすい、といった性質があります。このため、ブルーライトを多く発するデジタルディスプレイを見つめ続ける子どもの眼は、絶えずカメラのオートフォーカスのようにピントを合わせようと動いているにも関わらず、ピントを合わせづらい状態が続いている事になります。つまり、デジタルディスプレイを長時間凝視するゲームやパソコン作業は、眼のピントを調節する筋肉などに大きな負担をかけ、結果、眼の疲労やそれに伴う視力低下などの身体的な負担へとつながる可能性が高いと考えられます。短波長である青色光は、赤など波長の長い光よりも散乱しやすく、像のボケに繋がりがやすい。



### ③体内時計への影響

ブルーライトはそもそも昼間の太陽光に含まれる光の波長で、眼への光の刺激は体内時計の働きとリンクしています。夜間のゲームやインターネットを通じ長時間のブルーライトを眼から取り込むことで、体内時計を乱し睡眠の質に影響を与える可能性が指摘されており、子どもの健やかな成長に与える影響が懸念されます。



#### 【南青山アイクリニック副院長 井手武先生】

「短波長であるブルーライトから成長過程の未発達な子どもの眼を守ることは、疲れ眼などの眼の負担を軽減させる点において有効だけでなく、睡眠の質や身体疲労などの影響を軽減することにもつながり、ブルーライト保護メガネを習慣的に利用することは、子どもの体調管理という観点からも有効であると言えます。」